Fore Please／世界ゴルフ

識聞録

ゴルフビジネスのプロが30年以上回って見て聞いて感じた世界のゴルフ文化をお伝えする新連載。第四回は筆者が見たオーガスタのお話です。

Vol.4 オーガスタのお話

最高の〝おもてなし〟は提供しますよ、ただしルールは守りなさい――

40年携わるオーガスタに初めて関わったのは77年。

今年の最初のメジャー大会、マスターズもいよいよ来月に迫りました。マスターズの放映権を保有し、TBSで放送する事業に携わって40年近くが経ちます。私が最初にオーガスタのクラブハウスに足を踏み入れたのは1977年の12月。翌年のマスターズに我々のスポンサーの方をご案内する準備の打ち合わせのための訪問でした。

なんと言う田舎に来てしまったのか！　と感じるほど小ぢんまりとした空港に到着しました。当時のオーガスタ空港は今の日本のローカル線の駅ほどの大きさで、荷物はカーテンの向こうから人間の手で受け取られて台に放り出されるなど、一昔前の様相を呈していました。

オーガスタでは当時の総支配人のフィル・ウオール氏が出迎えてくれました。彼は南部出身のジェントルマンそのものですが、クラブハウスの正面に自分のリンカーンを乗り付けていた豪快な一面もありました。

ウオール氏にはクラブハウスの中やコース内を案内していただき、暖かく迎えてくれただけでなく、クラブハウスの屋根裏部屋、すなわちクロウズ・ネスト＝カラスの巣と呼ばれている部屋を私のために用意してくれました。アマチュアとしてマスターズに招待されたジャック・ニクラウスやゲーリー・プレーヤーなども宿泊した部屋ですが、そんな歴史のある場所とは知らずに、有名なクラブハウスにしては質素な部屋だなぁ、と思っていた無知をお許しください……。

ルールを守れない者はパトロンでも追い出された。

一番印象的だったのが、クラブハウスの地下にあるワインセラーです。並んだワインは、目を見張るほどのコレクションでした。メンバーは、キャビンと呼ばれるコース内にある宿泊施設に泊まりながら、そのワインを楽しみ、夕食はクラブハウスで仲間のメンバーたちやゲストと取ったあとにトランプのブリッジに興ずる訳です。その秘蔵のワインも仕入れ値に近い料金でメンバーに供給されるのですが、あまりにも有名なワインが安いのでびっくりしました。

初代会長のクリフォード・ロバーツ氏は、最高のトーナメントを目指してマスターズを始め、当時としては画期的なアイデアをトーナメント運営に導入した方です。メンバーやプレス、パトロンと呼ばれるギャラリーに対しても細かなルール作りがなされていました。

メンバーに対して夜8時以降はスタッフに無理な注文をさせないなど、クラブのスタッフに対してもフェアなルールを作り、今でもそれが守られています。全員が〝楽しめる〟ゴルフクラブと最高の大会〝マスターズ〟を作り出すこの精神はクリフォード・ロバーツ氏の言葉とともに守られ続けています。今でも観戦ガイドの1ページ目には67年にロバーツ氏が記した言葉が書かれています。

〝ゴルフではエチケットと礼儀がルールと同様に重要だ。選手の好プレーやショットに対しては賞賛を惜しまないでほしい。しかし他のプレーヤーの事も考えそのプレーに影響の出ないようにする事〟。〝ゴルファンにとって一番理解に苦しむのは、選手のミスショットや不運に対して喜んで手を叩いたりする行為だ。マスターズではそのような行為は稀な出来事であり、見識と思いやりのあるパトロンの諸君は世界一であるべきだ〟。

ロバーツ氏の逆鱗に触れてマスターズから追い出された選手やプレス、パトロンも少なくなかったようですが、現在のマスターズの威信はロバーツ氏のような人々の強い信念によって作られたといつも実感します。

最高の〝おもてなし〟は提供しますよ、ただしルールは守りなさいというメッセージを胸に秘め私はマグノリアレーン※を通り抜けるのです。

※マグノリアレーン…ワシントンロードからオーガスタナショナルのクラブハウスへと続くマグノリア（もくれん）並木の有名な道。

ゴルフビジネスのプロフェッショナル

神野方仁（じんの・みちひと）
1956年生まれ。テレ・プランニング・インターナショナル株式会社・代表取締役社長。国内外の様々なスポーツビジネスに関わり、中でもゴルフはマスターズのようなメジャー大会からジュニアゴルフに至るまで、イベント、放送、広告、マーケティングなどの面に長年携わっている。日記を公開中　Fast Track Michi's Diary: www.tpi-j.co.jp/diary/index.html

イラスト／ソリマチアキラ